



## 1月7日 成人式でタイムカプセル開封

フジエポックホールで成人式が行われました。  
小学生時代にみんなで箱に詰めた  
タイムカプセルを開封！

2023  
No.51

令和5年2月1日発行

11月臨時会  
12月定例会

- 雲仙普賢岳の行政視察レポート ..... P2~3
- 電気・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金支給事業を可決 など ..... P4~7
- 委員会活動「現場の声」を吸い上げ  
高齡者世帯増加に伴う現状と課題 など ..... P8~9
- 村内の工事現場などを視察 ..... P10
- 一般質問 村政を問う!! ..... P11~13
- 議会要望事項の回答 (全員協議会) ..... P14~16
- 議会だよりモニター通信 ..... P17
- 村民の声「地域とともに歩む」 ..... P18

# 官民一体となって 取り組んだ復興

10月11日、噴火災害を学ぶため、雲仙普賢岳がある島原市を訪れました。

平成2年に198年ぶりに噴火した雲仙普賢岳は、噴火が約5年間にわたって続き、44名が亡くなり、約1400戸もの家が倒壊しました。

相次ぐ火砕流や土石流、降灰など、噴火でかけがえのない人命が失われ、住居や畑など大切なものが失われながらも、住民や行政など地域が一体となって取り組まれた経験を学びに「噴火災害からの復興」をテーマに視察いたしました。

土石流被災家屋保存公園

## 視察を通して学んだ 目頃の備え、情報収集

議員 渡辺 正人

今回の研修では、「雲仙岳災害記念館がまだすドーム」で噴火災害から復興までの軌跡について学びました。

今後、これらの事例を参考に村の事業継続計画に反映できるよう政策提言していきます。

島原市では、噴火から約5年間で、火砕流だけでなく、雨などによる大規模な土石流が多発し、最大170mの高さまで土石流により家屋や畑が埋まってしまいました。10mm程度のちょっとした雨でも、土石流が発生していたそうです。

### がまだすドーム

実際に被災した電柱等の展示物を前にガイドから当時の状況説明を受けている

雲仙普賢岳 当時、報道陣が定点観測していた場所で「がまだすドーム」の杉本館長から説明を受けている





報道陣が定点観測していた場所で待っていたタクシー等が火砕流により被災した



そこで平成5年に策定した「雲仙岳災害・島原半島復興振興計画」などを基本としながら、防災工事や農地の災害復旧、交通体系の整備などの基礎的な事業から、農林水産業や商工・観光業の振興など幅広い事業を対象に、事業主体、実施年度、財源負担などをできる限り明らかにした、国、県、市町村はもとより民間も含めた、総合的かつ具体的な行動計画を策定し、その中でも重点プロジェクトとして27もの大規模なプロジェクトを行い、復興を成し遂げました。

一例として、長尾川下流に、10年かけて国が用地を買い上げ、新たに導流堤を作り、土石流の流れる道を新たに作り、水無川と長尾川に挟まれたデルタ地帯は、最高8m土を嵩上げして、区画整備を行い、畑と住宅地を復興させました。また噴火が定期的につき、農家は、火山灰を防ぐために、それまでの露地栽培からハウス栽培が主流になりました。

雲仙岳災害記念館がまだすドームでは、実際に焼け残った樹木や電柱なども展示され、1990年から5年間続いた普賢岳の噴火や災害を人々がどのように乗り越えて来たのか、火砕流のメカニズムとそのスピードと恐ろしさを体感する事が出来ました。

当時、殆どの人が火砕流について、正しく理解し

ていなかったことが、人的被害が大きくなった要因の一つでした。火砕流は時速100km以上のスピードで真っ直ぐ進んで来る爆風なので、車でも逃げられません。また、火砕流は、非常に高温の為、吸い込んで死亡した人も多く、火砕流により43名(その75%は、報道関係者と消防団員であわせて32名)が警戒区域で亡くなりました。

火山灰は、ガラスと同じ性質を持っているため、口や目に入ると呼吸器系への影響や目の痛みやかゆみなどが起こる為、避難の際には、保護メガネやマスクは、準備しておく方が良いこと、そして万一噴火がはじまったら、警戒区域には、絶対に立ち入らない事が大切であることを学びました。

富士山のハザードマップは、全ての可能性を考えて作られているため、非常に広い範囲での溶岩流を想定していますが、実際にはどこから噴火するかで被害を受ける地域は、大きく違って来ると言えます。

自分や家族を守るための事前対策として、ハザードマップの確認、避難準備品を再確認しておく事と常に自治体から発信される最新の情報を確認することがとても重要だと感じました。ぜひ、住民の皆さまにも心がけていただきたいと思います。

## おもな補正予算

### 電気・ガス・食料品等価格高騰 緊急支援給付金支給事業を可決

電力・ガス・食料品等の価格高騰による家庭等への負担が増加する中、特に家計への影響が大きい低所得世帯へ1世帯あたり5万円を給付す

る事業費1,970万円を可決しました。

なお、財源には「電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金」が充当されます。

## 条例改正

### 若年層の職員給与を引き上げ

#### 鳴沢村職員給与条例の一部改正

人事院勧告及び一般職の国家公務員の給与改定、山梨県職員の給与改定等を踏まえ、民間給与との格差是正のため若年層を対象とした給与の改定で、

平均改定率は0.2%を4月に遡り適用。また、賞与についても、勤勉手当を0.1月分引き上げ、12月1日に施行するための所要の改正を行いました。





## 村の光ケーブル・CATV放送ケーブルを民間へ無償譲渡

今定例会では4件の補正予算をはじめ、専決承認や条例の改正など合計13議案が提案され、慎重に審議した結果、いずれも賛成全員にて原案可決しました。

平成22年度に総務省の地域情報通信基盤整備推進交付金事業を活用し、村全域に整備した光ケーブル・CATV放送ケーブルは、施設維持費用がかかっており、今後も多額の費用が見込まれることから、民間へ移行することとなりました。光ケーブルはNTT東日本、CATV放送ケーブルは北富士有線テレビ放送へ無償譲渡することになりますが、現在の各種サービスは継続して提供されます。

補正予算の審議では、今年実施予定の村道I-1号線舗装打換え工事や、令和

3年度新型コロナウイルスワクチン予防接種の補助金の余剰額の返還などが可決されました。

また、会期中に全員協議会を開催し、昨年10月に議会から村長へ提出した要望事項の回答について執行部から説明を受けたほか、村道等の工事現場を視察し、工事が完成した現場の状況を確認しました。

（詳細はP10・15～17）

定例会初日の一般質問には5名の議員が登壇し、村の職員採用方法や、ゼロカーボンシティ宣言後の進捗状況、ナラ枯れ被害防止対策など、さまざまな角度から村の姿勢を問いました。

（詳細はP11～13）

### おもな補正予算

一般会計 1億1,270万円を追加し、予算総額は23億4,428万円に

#### おもな使いみち

●村道I-1号線舗装打換え工事	4,751万円
●新型コロナウイルスワクチン予防接種事業	2,611万円
●ふるさと納税返礼品等増加分	1,009万円

#### おもな財源

●繰越金	5,556万円
●普通交付税	3,832万円
●社会資本整備総合交付金	1,805万円

（万円未満四捨五入）

## 国民健康保険特別会計

2,200万円を追加し、予算総額は4億2,554万円に

### 使いみち

- 一般被保険者療養給付費 2,000万円
- 一般被保険者高額療養費 200万円

### 財源

- 保険給付費等交付金 2,200万円

(万円未満四捨五入)

## おもな条例改正

### 個人情報保護関連の条例を制定・一部改正

鳴沢村個人情報保護法施行条例の制定

鳴沢村情報公開条例及び鳴沢村情報公開・個人情報保護審査会条例の一部改正

鳴沢村議会の個人情報の保護に関する条例の制定

デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律のうちデジタル社会形成整備法附則第1条第7号に掲げる規定の施行による個人情報の保護に関する法律の改正に伴い、令和5年4月1

日から新個人情報保護法の規律が全国共通ルールとして地方公共団体等に直接適用され、その所管を個人情報保護委員会に一元化されることから、所要の改正を行いました。

[担当:総務課]

## 人事

人権擁護委員(※)の渡辺 正次氏及び小林 宗堅氏が3月31日で任期満了となるため、次の方を法務大臣に推薦することについて賛成としました。

任期は3年間となります。



渡辺 正次 氏  
(大田和 1組)【再任】



渡邊 伸一 氏  
(鳴沢東 9組)

### ※人権擁護委員

人権擁護委員法に基づいて、人権相談を受けたり人権の考えを広める活動を行う民間ボランティア。

## 山の神祀りを 執り行いました (1月17日)



ふじてん駐車場南の山林に「山の神」が祀られている石祠があります。「山の神」は、山を治める神として全国津々浦々で祀られており、本村でも山林での仕事の豊裕や安全、家内安全を祈願し奉祀されています。

奉斎されることが途絶えがちであったが、昭和60年ごろ議員有志が村の歴史や文化を守るため、奉仕者となり山の神祀りを復活させました。

それから、毎年1月17日に議員をはじめ第一区長や崇敬者の方々が参列し、祭典が執り行われています。



# 総務教育厚生常任委員会

委員長  
佐藤博水

## 現場の声を吸い上げ

### 高齢者世帯増加に伴う現状と課題

#### 鳴沢村地域包括ケア会議メンバーと座談会

村内の医療機関、介護事業所の代表者、民生委員やボランティアなどで構成された「鳴沢村地域包括ケア会議」では、地域の医療・介護の連携や、高齢者福祉等における情報の共有、地域課題の明確化や課題解決の検討などを行っておりますが、そのメンバーの皆さまと12月6日に座談会を開催し、ご意見やご要望などをお伺いしました。

まずは、福祉保健課より鳴沢村の高齢者の現状について説明を受けた後、鳴沢村地域包括ケア会議メンバーの皆さまからは、おもに次のようなご意見やご要望等をいただきました。

#### 【鳴沢村の高齢者の現状】

- ◆ 70歳以上の独居世帯が著しく増加している。
- ◆ 令和4年では、鳴沢村全体で26.5%（4軒のうち1軒）の世帯が高齢者のみの世帯。
- ◆ 令和9年（5年後）は村全体で40.3%（2.5軒のうち1軒）が高齢者のみの世帯になる可能性がある。

#### 【意見・課題等】

- ◆ 民生委員が実施している高齢者世帯へのニーズ調査では「日頃の生活で困りごとはない」という回答がほとんどだが、現状、困っている高齢者世帯の案件は増加している。「困っていることはあるか」ではなく、「これは足りていますか」など質問の仕方を変更することによって、潜在化している課題が見えてくるのではないかと。



鳴沢村地域包括ケア会議メンバー

- ◆ ニーズ調査時点では健康で困っていないとの回答した住民も、いつ介護支援が必要になるかわからないため、現状のニーズ調査の結果だけで問題がないと判断することはできない。
- ◆ ご家族がいない高齢者世帯が車の運転もできない、相談できる方もいない等のケースが増加しており、介護サービスの現場では対応が非常に困難になっている。行政に専門知識がある職員が不足している。福祉のコーディネーターが必要である。
- ◆ 民生委員の重要度が増しており、負担が増加している。
- ◆ 自治会未加入者が増加しており、住民同士のつながり・助け合いが希薄化しており、高齢者世帯の現状把握が困難になってきている。
- ◆ 高齢者世帯への生活支援（掃除、食事、買い物）サービスが不足している。有償でも利用したい方は大勢いる。

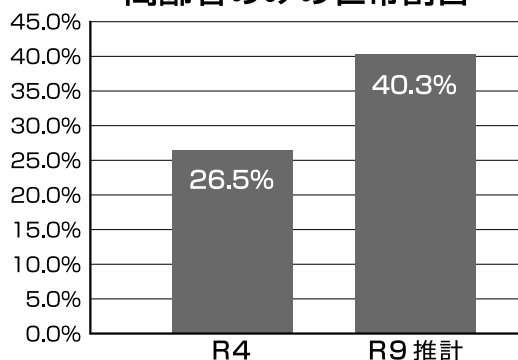


## 座談会を終えて

座談会ではこのほかにも、いろいろなお話を伺い、多くの課題があると感じました。

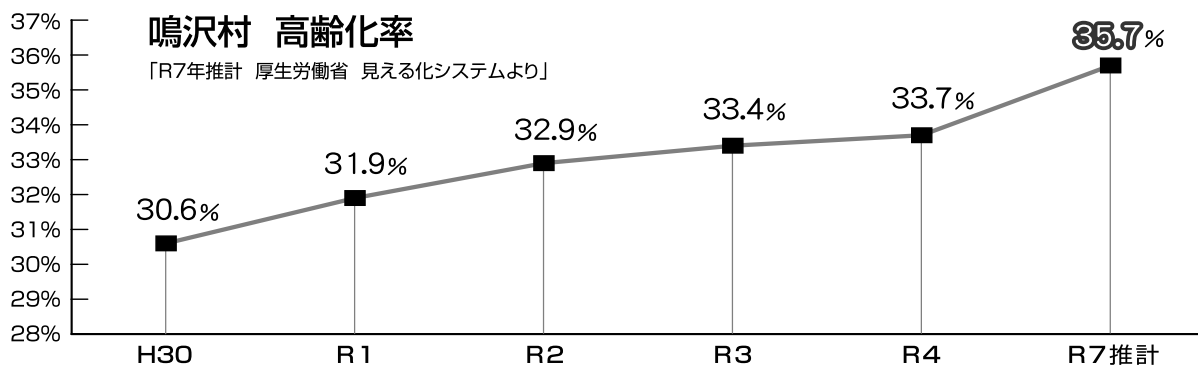
今回の座談会では、課題等の具体的な対策の提案には至りませんでした。当委員会では、今後も増加する高齢者世帯への支援等の検討を続けていきたいと考えております。

## 高齢者のみの世帯割合



## 鳴沢村 高齢化率

〔R7年推計 厚生労働省 見える化システムより〕



# 建設産業経済常任委員会

委員長

渡辺次男

12月1日に、建設産業経済常任委員会を開催し、令和4年度道路工事等の進捗状況等の確認や、土地開発行為等調整会議の報告について意見交換を行いました。

## ◆令和4年度道路工事等の進捗状況等確認

振興課より、今年度実施している村の工事(村道の舗装打換え4件、配水管布設替4件)のほか、県で実施している春日神社付近の水路改修、総合センター西側の急傾斜地崩壊対策事業などの工事について、内容や進捗状況等の説明を

受け、進捗状況等に問題がないことを確認いたしました。

なお、定例会会会期中の20日には、これらの工事について議員全員で現地視察を実施いたしました。

(詳細はP10)

## ◆土地開発行為等調整会議の報告について

「鳴沢村土地開発行為等の適正化に関する条例」に基づく土地開

発行為等調整会議の審議結果報告を行いました。

# 村内の工事現場 などを視察

村内で行われた道路工事等の現場視察を12月20日に行い、工事完成状況の確認をしました。



## 活き活き広場遊具新設工事

更なる魅力ある施設とするために、環境保全支援事業寄附金を活用し、活き活き広場内に複合遊具が新設されました。また、道の駅第3駐車場から遊具へ向かう進入路も併せて整備されました。



## 村道443号線道路改良工事、配水管布設替工事

前原水源池付近の村道が老朽化していたため、道路改良工事が実施されました。道路工事に先駆けて配水管も更新されました。



## 村道562号線舗装打換え工事、配水管布設替工事

小林鶏卵西側付近の村道が老朽化していたため、舗装打換え工事が実施されました。道路工事に先駆けて配水管も更新されました。

## 村道580号線舗装打換え工事、配水管布設替工事

居酒屋ここ前の村道が老朽化していたため、舗装打換え工事が実施されました。道路工事に先駆けて配水管も更新されました。



## 村道 I - 1 号線配水管布設替工事

国道境野交差点から保育所までの原の道が老朽化しているため、来年度国の交付金を活用して舗装打換え工事を実施するにあたり、道路工事に先駆けて配水管も更新されました。





三浦 雄一郎 議員

現在、村職員の募集は、8月に受付終了、9月に採用試験という方法を取っているが、学生の就職活動はもっと早くから始まっている。より良き人材を確保する事は、今後の村の発展に繋がると考える。民間の適正試験などの導入も視野に入れ、村独自の採用方法を検討し、採用試験時期や内容を見直す考えはあるか。

### Q 村職員の採用試験を見直す考えは

A 統一採用試験を継続、委員会へ要望を出し実施して行く

●村長 小林 優

住民ニーズの多様化等により職員が抱える業務内容は煩雑化し、優秀な人材の確保が求められる。現在、山梨県町村職員統一試験実施委員会による採用試験により行なっている。村独自で行うより、財政面や情報発信などを鑑みると、合理的かつ有効的であるが、優秀な人材を多く採用するためには、採用方法は、時代に即し幅広く検討する必要がある。引き続き当委員会での採用試験を実施することとし、積極的に改善、要望などを働きかけ、最善の方法で採用試験を実施できるよう進めて行く。



土屋 文明 議員

令和3年2月に山梨県全自治体が2050年二酸化炭素排出実質ゼロ表明を宣言してから2年目の経過を迎えるが、村としてゼロカーボンシティ宣言後の進捗と今後3年間、2025年までの具体的な取組について伺う。

●住民課長 小林 昭博

ゼロカーボンシティへの取組については、太陽光発電設備・太陽熱温水器の設置補助、生ごみ処理機・コンポスト等の設置補助、外灯のLED化など温室効果ガス削減における事業を実施してきた。

### Q ゼロカーボンシティ宣言後の取り組みは

A 今後3年間は、家庭や事業者に対して啓蒙活動を推進

今後、各家庭や事業者にも、日常生活の中で環境保全につながる行動が求められるため、住民に温暖化防止に向けた啓蒙活動、家庭でできる簡単な排出削減の取り組みや国や県の助成制度など積極的な情報発信を行って行く。



補助制度がある太陽光発電設備



渡辺 次男 議員

山梨県では2019年に初めて3市町村で被害が確認され、21年には郡内地域を中心に15市町村にまで拡大し、被害量も2年で240倍に急拡大した。

枯れた木を放置すると倒木による二次被害の恐れもある。

本村の被害状況および被害拡大防止対策は、また、伐採木の活用方法等を検討しているか。

●振興課長 小林 昌信

本村におけるナラ枯れの被害状況は、2020年度に21㎡、21年度に99㎡の被害が確認されており、ほとんどが県有林である。民有林の被害は、21年度に1本、4.26㎡の被害木を処理している。

Q ナラ枯れ被害の現状と対策は

A 伐採及び病害虫の駆除費用の補助

処理方法としては、最も効果があると思われる薬剤処理を行っている。

被害拡大防止の対策は、2022年1月に鳴沢村ナラ枯れ被害対策事業補助金交付要綱を制定し、ナラ枯れ被害木を所有または管理する者に対して、伐採及び病害虫の駆除費用の補助を行っている。

伐採木の活用については、県のガイドラインにより、被害木の移動や処理に制限があることや村内の処理本数が少ないため、現在のところ検討していない。



被害にあったナラの木

Q スポーツ推進の指導者の育成と確保は

A スポーツ少年団活動を推進し人材育成と確保に繋げる

令和3年度教育委員会の自己点検・評価シートによるとスポーツ・レクリエーションの指導者の育成と確保は、B評価であるがその要因は、

各種競技団体等で開催されている公認資格保有者等の研修会への参加による人材育成、指導者へのサポート等の方策はあるか。

●教育長 小林 茂澄

評価Bの要因として、コロナ禍により中止となる研修会が多く、指導者に参加奨励ができなかったためである。

公認資格であるスポーツ少年団認定員取得者は、現在23名いるが、新たな指導者を育成および確保



佐藤 博水 議員

していくことは重要だと認識している。

スポーツ少年団に係る指導者資格については、新たな規定が制定されたため、各単位団に働きかけ、令和5年度末までに最低限の要件である各単位団2名以上の確保を目指し、更新料等の助成も検討している。

スポーツ少年団活動を推進していくことにより、将来もそのスポーツに取り組むことで、生涯を通じて指導できる人材確保に繋がると考えている。

## Q 災害時避難所の安全性の確立は

### A より迅速な応急危険度判定体制の確立を検討

災害時避難所における建物の安全性を確認する応急危険度判定を行う必要があるが、村の建築士は数が限られ、判断できない可能性もある。地域の建築士会と連携を行う考えはあるか。

●村長 小林 優

災害等により居住場所を確保できない被災者が仮設住宅等に入居するまでの間に利用する村の指定避難所は、鳴沢小学校体育館、大田和公民館、鳴沢村総合センター、山道ホール、なるさわ富士山博物館エポックホール、いきやりの湯、鳴沢村民体育館、村民武道館の8ヶ所ある。

鳴沢村地域防災計画では、避難所開設する際には、各施設管理者が施設の安全性の判断ができない場合、災害対策本部に応急危険度判定士の派遣を要請し、それを受け、山梨県に派遣を要請することとなっている。より迅速に避難所の判定業務を行うために山梨県建築士会北富士支部に応急危険



小林 昭一 議員

度判定業務を直接要請ができる協定の締結について、早急に検討する。

※応急危険度判定

市町村が民間判定士のボランティアによる協力のもとに、被災した建築物の被害状況を調査し、建築物が安全か否かを応急的に判定するための調査。



応急危険度判定

## Q 防災士との連携の考えは

### A 防災士には自主防災組織等との連携を

村内には防災士の資格を取得し、防災の意識向上に努め活動しているグループがある。

村の防災担当だけでは、業務が多で大変。防災士とさまざまな面での意見交換を図ることにより、防災訓練でもサポートできると思うが連携等をしていく考えはあるか。



防災訓練で活動する防災士

●総務課長 三浦 寿得

大規模災害が発生すると、災害対応は膨大な量となり、役場機能が低下するが、住民の生命・身体及び財産を保護し、住民生活への影響を最小限とするため、業務継続計画を策定し、継続的に改善をしている。

また、防災に対する知識・技能を有し、地域における防災啓発活動や住民主体の防災対策を積極的に推進できる人材を養成するため「甲斐の国・防災リーダー養成講座」の研修受講料と防災士資格取得試験受講料を助成している。

自助・共助を原則として、様々な場で防災力を高める活動が期待される防災士には、行政では手が届ききれない自主防災組織やボランティア等との連携を期待している。



# 議会要望事項の 回答を受けました

12月20日に全員協議会を開催し、  
村長へ提出した議会要望事項の回答を受けました。

議会の要望事項と、執行部回答の  
要旨は次のとおりです。

※内容を要約しています。

## 防犯対策について

村内へ不審者対策看板の設置をしていただきたい。

### 【教育委員会】

既存の看板は「不審者はすぐ通報！村内一斉放送します」という内容で平成16年に24ヶ所設置しました。現状を確認したところ、既に存在しない箇所が13ヶ所、カッティング文字の剥がれによる視認性不良が6ヶ所、設置場所の問題により視認が難しい箇所が1ヶ所ありましたので、看板の更新を含め、その他の手法も検討していきます。



経年劣化した不審者対策看板

## 教育環境について

(1)小学校へ冷房・暖房機能を持つエアコンを導入していただきたい。

### 【教育委員会】

ここ数年高温が続いている状況を鑑み、暖房・冷房の空調全般整備について、どのようなあり方が適切かを含めて検討を進めます。

(2)遊学館において放課後児童の受入れを行っている支援員等が現在の人数では受け入れている児童全員への対応が困難な場合があるとの声が聞かれることから、支援員の増員を検討していただきたい。

### 【教育委員会】

遊学館事業開始以降、定員もなく、無制限に児童を受け入れており、近年では多い日には約70名の児童の利用があり、支援員4名で対応しており、通常時はまったく問題はありませんが、子ども同士のトラブルなど発生時の対応は大変な状況です。

最近では、支援員と村保健師、小学校と児童にかかる情報共有を図り、その児童の特性に応じた対応をすることで比較的落ち着いた状態となっております。

厚生労働省の放課後児童クラブ支援員の配置基準では児童40人に2名以上の配置となっており、現状では基準を満たす状況です。

また、遊学館利用に際し、開設時より利用料を徴収しておらず、支援員増による財政的な負担も増すこととなります。

従って、支援員の増員は予定していませんが、引き続き、優秀な人材確保を図っていきます。

## 農業振興について

(1)遊休農地から、農地を借りた借主(村外者を含む)に対して、サンライムの補助枠を増やしていただきたい。また、今後他県へも法人勧誘を積極的に行なうなど、遊休農地対策を行っていただきたい。

## 【振興課】

鳴沢村では遊休農地解消に向けて農業委員会と協力し、農地を借りたいという人がいる際に情報提供できるように遊休農地についての情報を収集してもらい、事務局で情報をまとめております。サンライムの村外者に対しての補助や他県の法人勧誘につきましても遊休農地対策として今後検討していきます。



耕作されていない遊休農地

## 道路について

(1)渋滞対策として国道139号の道の駅入り口交差点へ矢印式信号機の導入及び右折レーンの延伸を国へ働きかけていただきたい。

## 【企画課】

富士吉田警察署及び国交省の担当者と協議を行いましたが、懸念される渋滞はゴールデンウィークや夏休みなど一時的であること、矢印式信号機の設置により国道の渋滞が増加してしまう可能性が高いこと、右折レーンの延伸をしても右折レーンの渋滞が伸びるだけで渋滞解消には繋がらないことから、現状では難しいとのことでした。

(2)山梨県では自転車利用環境の推進を行っているが、村内における国道、県道ともに整備されておらず、自転車が通行している際に車との接触の危険性が高いことから国、県へ書面により強く働きかけてもらいたい。

## 【企画課】

路肩幅員が狭い本村の国道・県道の場合には、車道混在の路面表示が主な整備となります。こちらは、鳴沢村だけでなく、ある程度連続性を持って整備することが必要であり、場所によっては路肩の段差解消も必要となります。即時対応は難しいと思いますが、山梨県で自転車の活用の推進に取り組んでいるため、町村会を通じて国・県へ要望します。

(3)林間公園駐車場から旧北富士ゴルフコースへの村道において、一部幅員が狭い箇所がある。この村道はキャンプ場利用者が今後増加することが見込まれるため、道路拡幅をしていただきたい。

## 【振興課】

要望の村道ですが、2カ所でグランピング施設が開発中であります。

要望事項にあるとおり、現村道は一部幅員が狭い箇所があり、施設のオープンに伴い通行量の増加が予想されるため、すれ違いなどが困難になることも想定しています。

今後、施設オープン後の村道の通行量などの実態を踏まえ拡幅等の必要性について検討を行います。

(4)小学校東側(プール側)の国道139号に接道している村道は、児童を送迎する車で登下校の時間帯が渋滞していることから、渋滞緩和対策を行っていただきたい。

## 【教育委員会】

校庭に隣接し、国道139号に接道している村道は比較的幅員も確保されておりすれ違いは十分に可能であり、小学校施設配置の現状から送迎が集中する時間帯の渋滞はある程度やむを得ないものと考えています。

小学校プール前から東方向の安富歯科に至る村道は通学路に指定されており、また、遊学館に至る道路であるため、多くの児童が歩きます。従って、周辺の安全対策は引き続き検討していきますが、渋滞緩和対策は考えておりません。



小学校プール側の村道

## 地域振興について

(1)鳴沢村を多くの方へアピールし、イメージアップを図るため、村内へ歓迎看板の設置を検討していただきたい。

### 【企画課】

昨年度、道の駅なるさわのトイレから出た正面の壁に村の紹介や特産品などをPRする多言語看板を設置しました。また、令和2年度には一本木ポケット公園についても同様にPR用多言語看板を設置していますので、新たな看板設置は考えておりません。

(2)少子高齢化社会の中、鳴沢村を住みたい村にする必要がある。地域振興や生活の利便性向上のため、商業施設の誘致を推進していただきたい。

### 【企画課】

鳴沢村ではジラゴンノ地区に村有地4区画、民有地1区画の合計5区画の企業立地区画があります。この企業立地区画の情報は、やまなし産業立地コミッションHPにおいても掲載され、情報連携されており、新規企業誘致につながるよう事業を推進しております。商業施設については、近くにフォレストモール富士河口湖、オギノ河口湖店などがあり、本村の人口を鑑みると誘致は難しい状況ですが、企業

立地の問合せ等があれば積極的に推進していき、現在、コロナ禍で開催が見送られている企業向けの説明会等にも参加していきます。

## その他

(1)住民と行政が協働した景観づくりの活動として行っていた「村内一斉清掃」が徐々に参加者が減少している。今後も村の景観づくりのため、今一度住民への周知や開催回数の見直し等を検討していただきたい。

### 【住民課】

村内一斉清掃については、新型コロナウイルス感染症の広がりにより、令和2年度から村内放送などによる周知を行わず、実質的に休止となっていました。次年度から再開します。

(2)防災行政無線からの時報を子どもたちの関心を持てるものや、学習につながる放送に変更するなど、防災行政無線の有効活用を検討していただきたい。

### 【総務課】

防災行政無線は、鳴沢村地域防災計画に基づき、地域における防災、応急救助、災害復旧に関する業務に使用することを主な目的として、併せて、平常時には一般行政事務に使用できる無線局であり、屋外拡声器や戸別受信機を介して、役場から住民等に対して直接・同時に防災情報や行政情報を伝えるシステムです。

鳴沢村では、防災行政無線が正常に作動しているか、広く聴き取れるか等を点検するために、時報として、午前7時と正午と午後6時に幅広い世代なじみのあるメロディーで実施しています。現在の時報が地域に定着しているため見直す予定はありません。



# 議会だより

## モニター通信

表紙の写真は衝撃的でした。31年前の雲仙普賢岳の噴火による火砕流が迫ってくる映像を思い出しました。鳴沢村も住宅地のほとんどは溶岩流の上に建っています。噴火の周期は分かっていません。こうした視察なども適時に行い、忘れないようにしたいものです。

(70代 男性)

「令和3年度はこんな事業が行われました」のページで、このような事業も行われていたのか、税金がどのように使われているのかと写真付きで記載されており、わかりやすかったです。

(40代 男性)

子育て世帯への給付金や、小学校のレバー式水栓を取り入れた感染症対策など、子どもに関する政策が多く行われていて子どもを育てている私としても非常に助かっております。今後も子どもが暮らしやすい村作りを宜しくお願い致します。

(30代 男性)

山梨県広報コンクールの優秀賞の受賞おめでとうございます。毎号見っていますが読みやすく、時には村民との意見交換会などの内容も載っていたりと鳴沢村がより住みやすいように働きかけてくれてありがたいです。

(30代 男性)

議会だよりモニターの皆さまから、11月発行の議会だよりNo.50について、次のようなご意見等をいただきました。皆さまからのご意見等を参考に、今後もよりよい議会だよりを作っていきたいと思います。

総合センター北側の傾斜地が危険だと感じていましたが、昨年度一部対策が取られました。

総合センターは、放課後に子ども達が利用しており、災害時の避難場所でもあります。今年度は空気清浄機が設置予定とのこと。一日も早い工事の完成を願っています。

(70代 女性)

带状疱疹ワクチン接種費用助成は、分かり易かったです。最近ワクチンについて、中央・地方紙、国・地方議会、欧州議会でも様々な意見が見られます。グローバルな視点で接種費用助成から有効性高低まで、継続して説明いただければ、非常にありがたいと思います。

(60代 男性)

定期的に行われている座談会の内容は、問題や課題、要望などがわかりやすく伝わってきます。現状を知ることで、不審者対策として村に住むみんなが意識するようになると思います。住みやすい村になると嬉しいです。

(40代 女性)

## 地域とともに歩む

## なるさわ接骨院

院長 渡辺 直也



平成18年10月より、鳴沢村にて「なるさわ接骨院」を開業しております。

私が幼い頃は、怪我をしたら親の帰宅を待ち、晩御飯時の忙しい時間に隣町の接骨院に連れて行ってもらいました。幼いながら「近くに接骨院があればいいのになぁ」という思いが、今に繋がっております。現在、保育所や学校活動、スポーツ、習い事などに楽しく一生懸命に取り組むお子様たちや、鳴沢村の心暖かい人たちに支えられ、たくさんの元気をもらいこの仕事に励んでおります。

業務以外の活動は、所属する「公益社団法人山梨県柔道整復師会」が山梨県と災害協定を結んでおり、担当理事として山梨県地震防災訓練に参加しております。また、富士五湖周辺を拠点とした「北富士柔道スポーツ少年団」の代表として、未就学児から高校生に週2回、柔道の指導をしています。当団は、柔道を通じ「人の心身の痛みがわかる心」「挫けず何度でも立ち上がることの出来る強い精神」を育むことを念頭に活動しております。



暖かい心に育まれた素晴らしい村に生まれた事を誇りに思い、これからを担う世代の育成に力を注ぎ、地域に貢献して行きたいと思っております。

## 広報常任委員推薦！ 鳴沢のおすすめ！

広報常任委員  
渡辺 正人

### 鳴沢氷穴



国の天然記念物に指定されている溶岩洞窟【鳴沢氷穴】の最新情報です。現在は、洞窟内の氷柱を青くライトアップしたり、スマートフォンに登録して声優の音声ガイドが聞けるアプリもあります。

また、「ゆるキャン△」の氷穴限定グッズや世界的に有名な富士山写真家【TAKASHI】氏のポストカードなどオリジナル商品も多数置かれています。そして2023年春頃には、酒蔵と提携して氷穴オリジナルの凍結酒を発売予定との事。これらの中で特におすすめは、「ゆるキャン△」の氷穴限定グッズだそうです。ファンの方は一度出かけてみては如何でしょう。「ゆるキャン△」は、山梨県周辺を舞台にソロキャンや冬キャンの人気の火付け役となったアニメ。

※情報提供は、富士観光興業より



### 総務教育厚生常任委員会より

山梨県では1月時点で新型コロナウイルス感染症が去年の8月の第7波のピークを500人以上上回り、1日の感染者数が2,000人以上を超える日や、病床使用率も50%を超えるなど、未だ収束する気配は見えません。

◆コロナ対策には、こまめな換気が重要です。人がいない部屋の窓を開け、廊下を經由して少し暖まった状態の新鮮な空気を人のいる部屋に取り入れる方法は室温を維持するために有効です。室温が下がり過ぎないように工夫してこの冬は暖かく過ごしましょう。

◆バランスの良い食事を心がけ、適度な運動をして睡眠も十分にとり、万が一感染しても重症化しない体づくりを心がけましょう。

なるさわ議会だよりは、ホームページでも公開しております。また、本会議の会議録も公開しておりますので、ぜひアクセスしてください。

